



理研ビタミン株式会社

証券コード：4526

2021年度決算説明資料

取締役 経営戦略担当
富取隆浩

2022年5月18日

- 15億円の増収、58億円の営業増益
価格改定が想定より進み、業績予想に対して上振れ
〔 青島福生食品を除き、会計基準変更分を調整して比較すると 〕
66億円の増収、13億円の営業増益
- 海外改良剤事業が増収・増益を牽引
主な要因はコスト上昇による価格改定と為替（円安）の影響
- 親会社株主に帰属する当期純利益は215億円、3期ぶりの黒字回復
うち120億円は連結除外によるキャッシュを伴わない利益
- 期末配当は前期より4円増額し、25円

青島福生食品の連結除外が各段階利益にプラスの影響 当期純利益は3期ぶりの黒字

単位：百万円

	20年度 通期	21年度 通期		前年同期比 (旧基準)		業績予想との比較 (新基準)	
	旧基準	新基準	旧基準	増減額	増減率	予想(2/10)	差額
売上高	77,722	79,231	80,877	+3,155	+4.1%	78,500	+731
営業利益	1,367	5,840	5,838	+4,471	+327.0%	4,800	+1,040
営業利益率	1.8%	7.4%	7.2%	+5.4pt		6.1%	+1.3pt
経常利益	1,652	6,182	6,180	+4,527	+273.9%	5,000	+1,182
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲1,618	21,582	21,580	+23,198	-	21,200	+382

(連結除外事業を除く)	20年度 通期	21年度 通期		前年同期比 (旧基準)		青島福生食品 (連結除外事業)	
	旧基準	新基準	旧基準	増減額	増減率	2020年度	2021年度
売上高	73,802	78,832	80,478	+6,675	+9.0%	3,919	399
営業利益	5,166	6,495	6,493	+1,326	+25.7%	▲3,799	▲654
営業利益率	7.0%	8.2%	8.1%	+1.1pt		-	-

*2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しており、適用の影響を除いたものを「旧基準」として表記しています（以下頁同様）

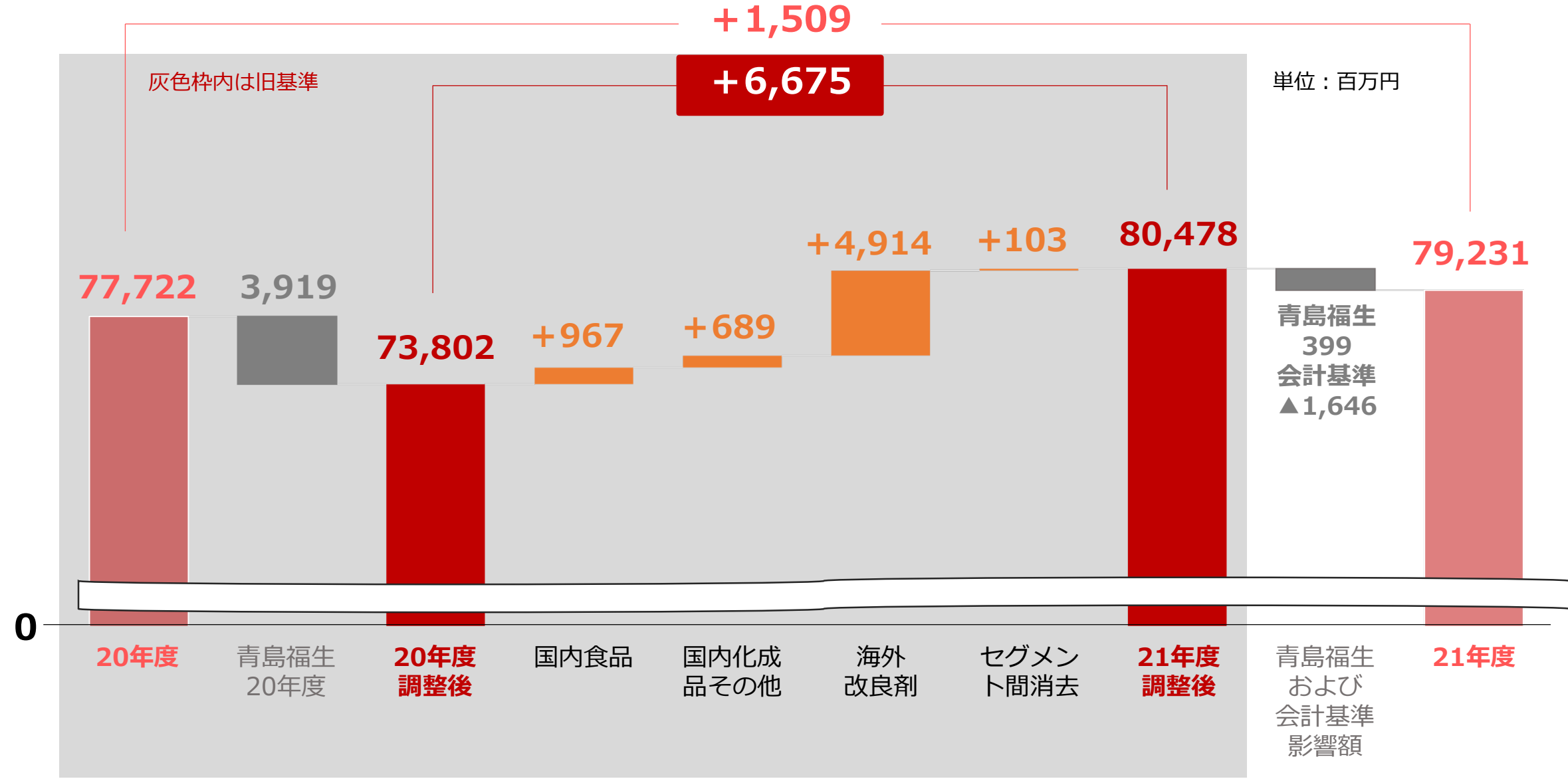
海外改良剤はコスト上昇分の価格転嫁が進み、大幅な増収増益

単位：百万円

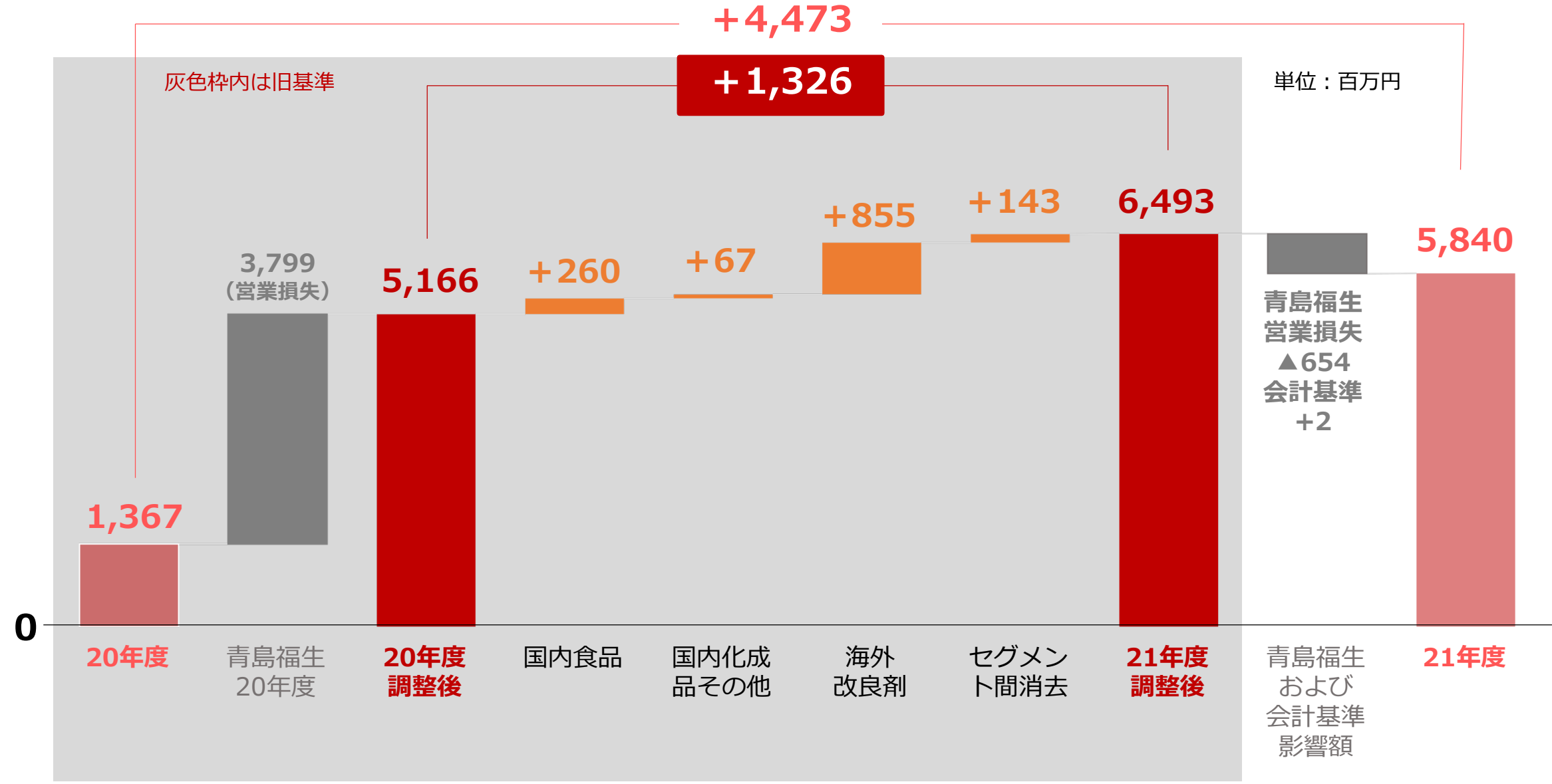
	売上高					営業利益				
	20年度 通期	21年度 通期		前年同期比 (旧基準)		20年度 通期	21年度 通期		前年同期比 (旧基準)	
	旧基準	新基準	旧基準	増減額	増減率	旧基準	新基準	旧基準	増減額	増減率
国内食品事業	54,514	54,130	55,481	+967	+1.8%	4,677 8.6%	4,938 9.1%	4,938 8.9%	+260 +0.3pt	+5.6%
家庭用食品	14,009	12,928	13,808	▲201	▲1.4%	/	/	/		
業務用食品	18,587	18,196	18,597	+9	+0.1%					
加工食品用原料等	21,916	23,005	23,075	+1,159	+5.3%					
国内化成品その他事業	6,204	6,617	6,893	+689	+11.1%	541 8.7%	602 9.1%	608 8.8%	+67 +0.1pt	+12.4%
海外事業	18,550	19,926	19,945	+1,394	+7.5%	▲3,303 -	705 3.5%	696 3.5%	+4,000 -	-
海外改良剤	14,631	19,527	19,545	+4,914	+33.6%	495	1,360	1,351	+855	+172.5%
青島福生食品*	3,919	399	399	▲3,520	▲89.8%	▲3,799	▲654	▲654	+3,144	-

*青島福生食品は2021年6月に持分譲渡し、1Qで連結から除外しました

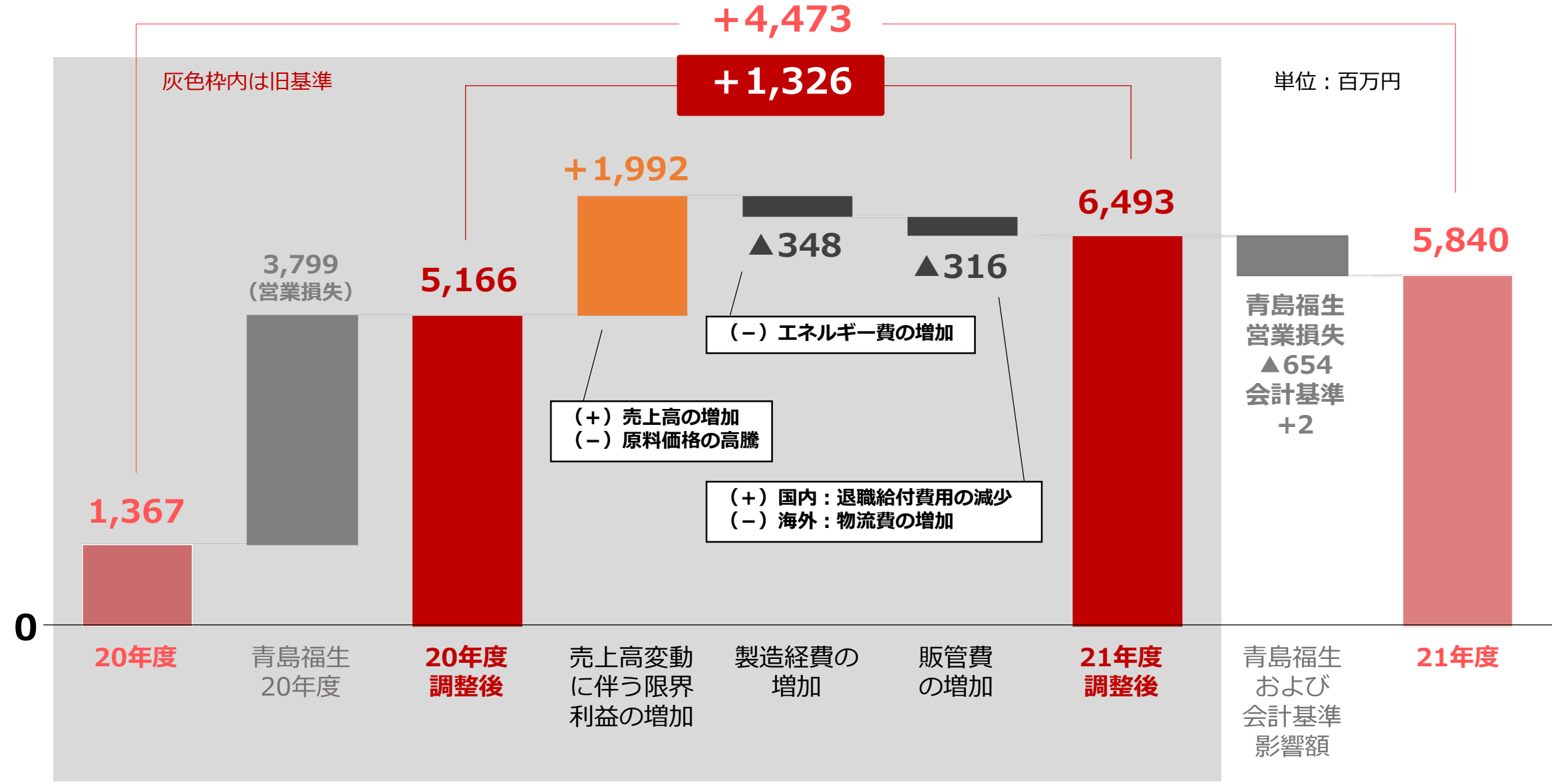
売上高のセグメント別増減



営業利益のセグメント別増減



営業利益の要因別増減



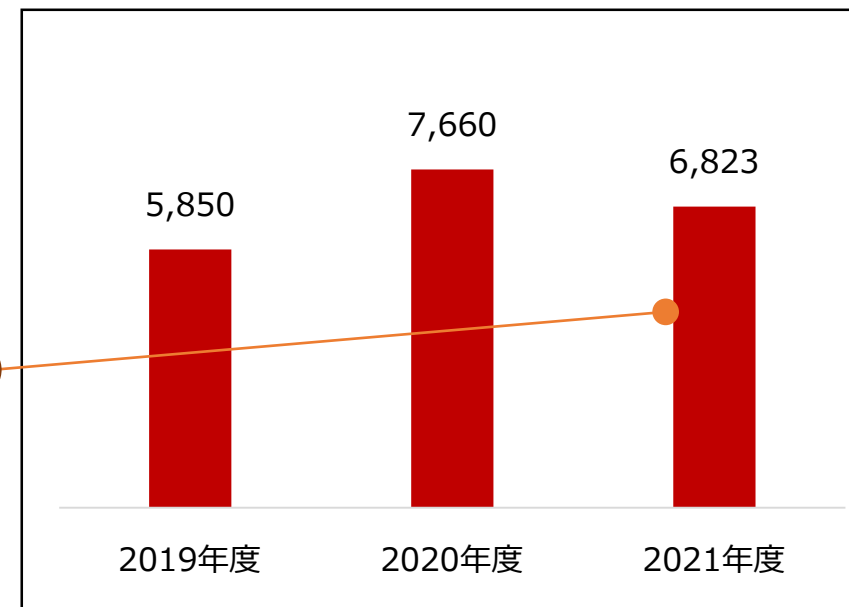
営業外損益・特別損益のポイント

単位：百万円

	2020年度 通期	2021年度 通期
営業利益	1,367	5,840
営業外損益	285	342
経常利益	1,652	6,182
特別利益	426	14,343
（関係会社出資金売却益）	-	12,076
（投資有価証券売却益）	304	2,201
（その他）	121	65
特別損失	2,086	213
特別損益合計	▲1,660	14,130
税引前利益	▲7	20,313
法人税等	1,603	▲1,285
非支配株主に帰属する 当期純利益	8	16
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲1,618	21,582

営業活動によるCFの推移

単位：百万円



キャッシュを
伴わない利益

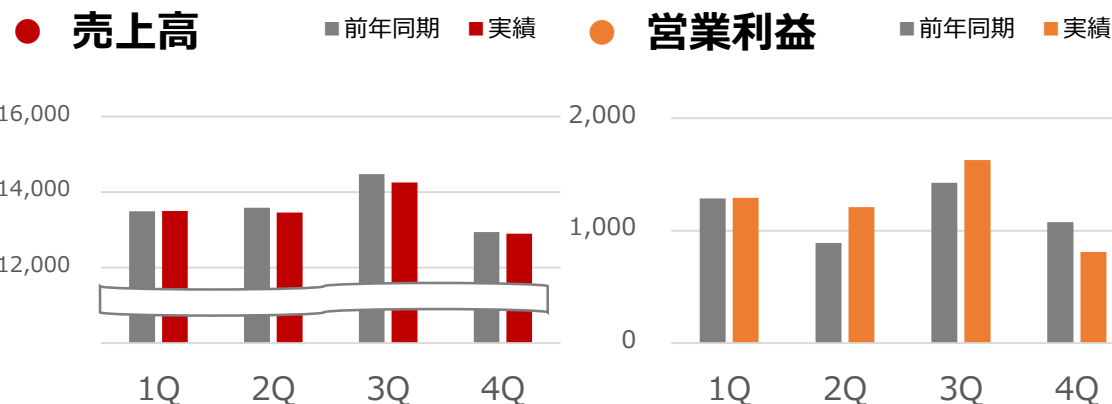
理研ビタミン単体の損益計算書

繰延税金資産の計上に伴う
法人税等調整額 ▲1,833

国内食品事業：BtoCは前年の反動減、BtoBは回復傾向もコロナ前には戻らず

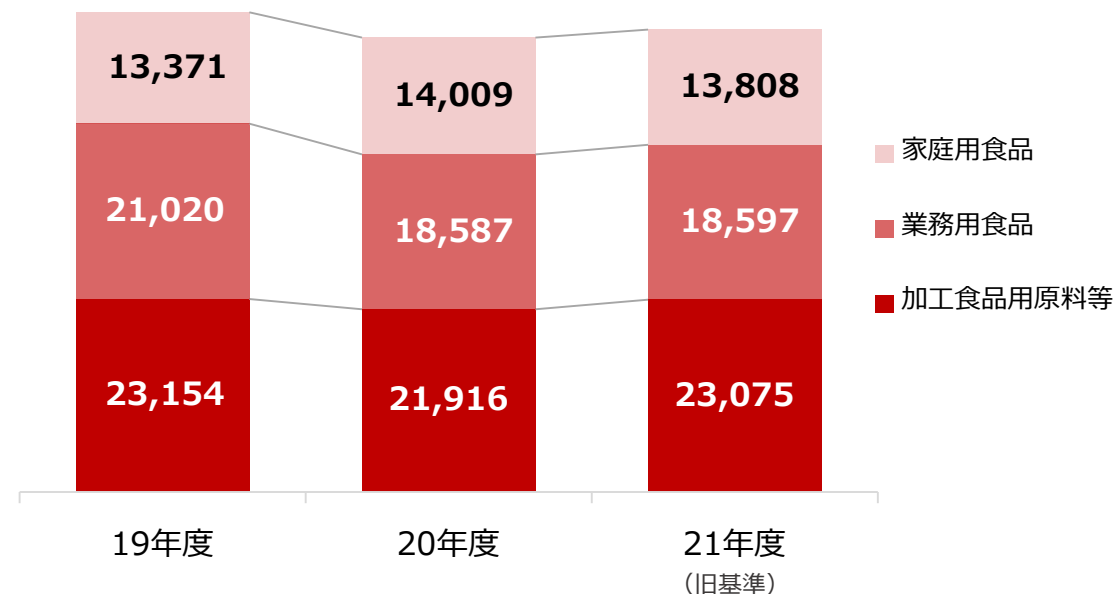
国内食品事業

単位：百万円	20年度	21年度	(旧基準)
売上高	54,514	54,130	55,481
営業利益	4,677	4,938	4,938



売上高の推移（旧基準）

単位：百万円



売上高

- 業務用食品は学校給食向けが通年では2019年度並みに落ち着くも、外食向けは厳しい状況が続く
- 加工食品用原料等は製菓・製パン向けの需要回復や価格改定が増収に寄与

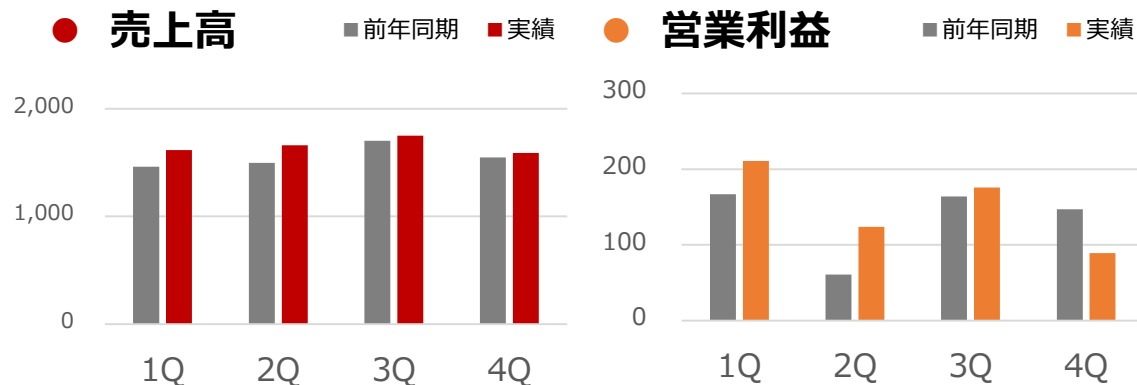
営業利益

- 新型コロナの影響が当初予想より長期化し、活動経費が低水準で推移
- ヘルスケア部門の医薬用マイクロカプセル、クロセチン、海藻ポリフェノールなどの好調が利益貢献

国内化成品その他事業：売上高は過去最高水準 海外事業：価格改定が奏功

国内化成品その他事業

単位：百万円	20年度	21年度	(旧基準)
売上高	6,204	6,617	6,893
営業利益	541	602	608



売上高

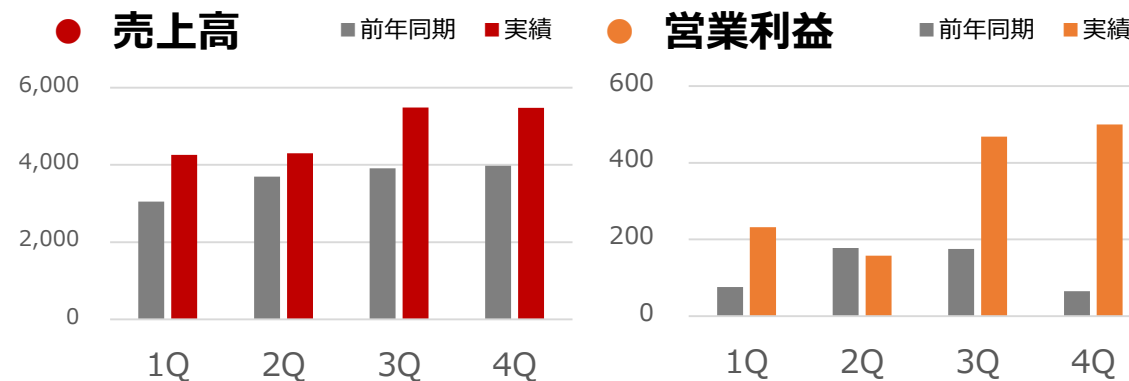
- 自動車産業や食品包装材向け需要が好調に推移
- 価格改定効果で旧基準では過去最高

営業利益

- 4Qを中心に原料価格高騰の影響を受けるも、価格改定を含む増収効果で計画を上回る

海外事業 (改良剤)

単位：百万円	20年度	21年度	(旧基準)
売上高	14,631	19,527	19,545
営業利益	495	1,360	1,351

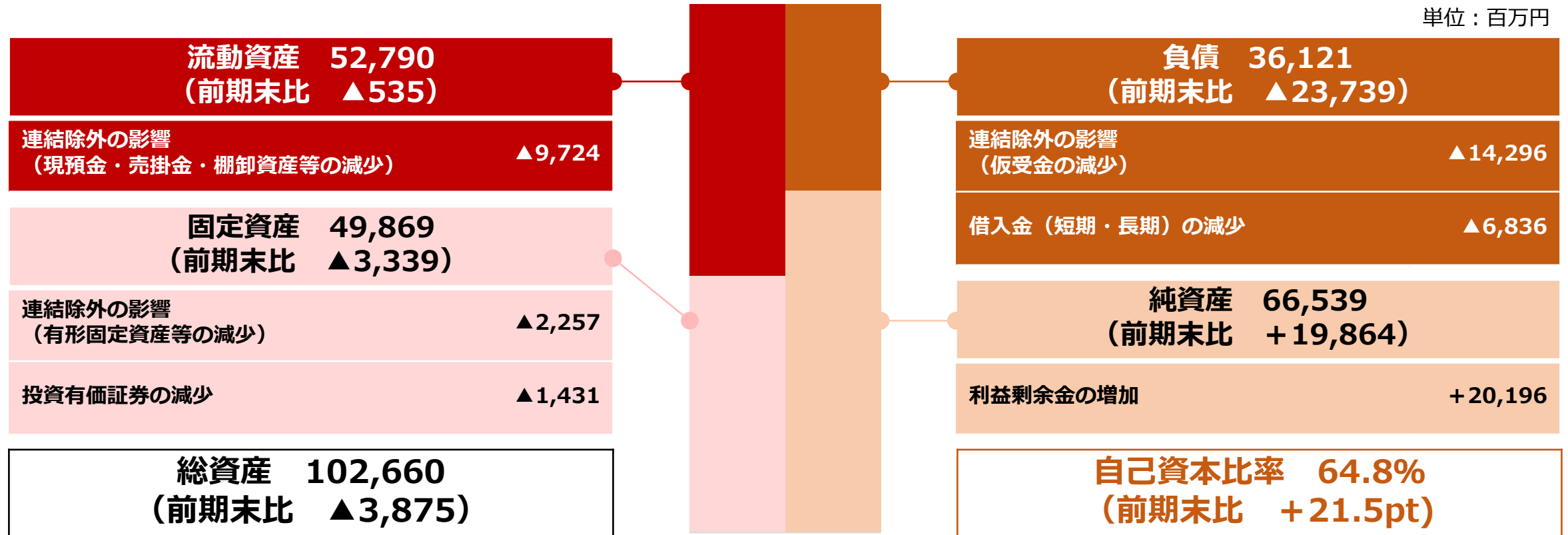


- 価格改定と円安の進行により大幅な増収
- 物流の混乱で欧米向けの出荷は安定せず

- 早期の価格改定が奏功し当期は利益を確保
- 米国外食需要の回復によりエキス事業が伸長

青島福生食品の連結除外により財務バランスが改善

- 総資産は38億円減少、純資産が198億円増加
- 自己資本比率は64.8%に回復（前期末比 + 21.5pt）

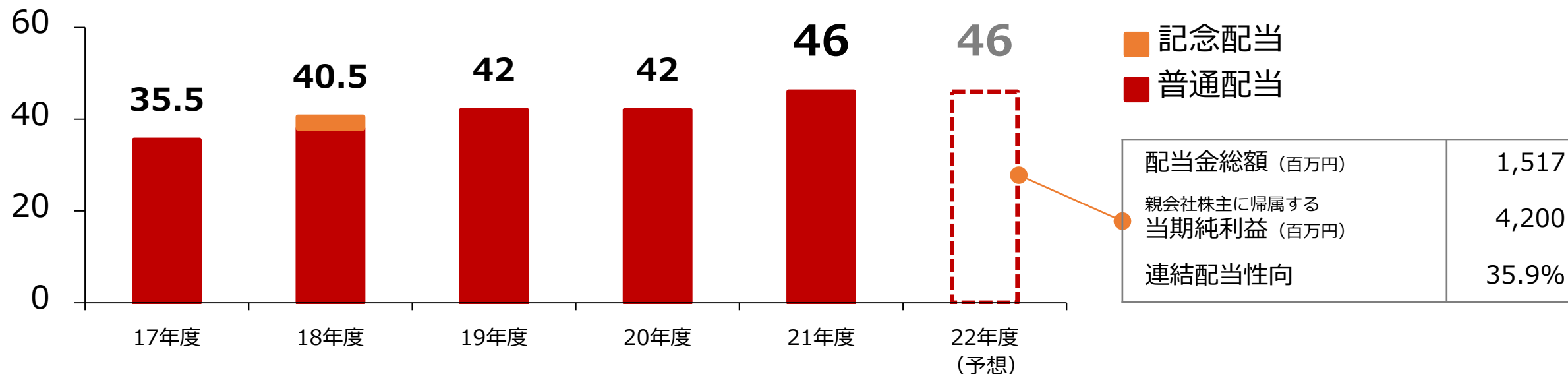


2022年度より配当方針を変更

<配当方針>

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題の一つと考えており、当社の経営環境、業績、財務状況、株主還元性向、経営基盤強化のための内部留保等を総合的に勘案しながら、**連結配当性向30%以上**を目安に安定的な配当を継続して実施していくことを基本方針といたします。

1株当たり年間配当金(円)



*当社は2020年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。
上記グラフ中の1株当たり年間配当金は、株式分割後の水準で記載しています。

前提条件をもとに業績予想を算出

- 新型コロナウイルスの影響は長期化、変化する状況への対応が重要
- コスト上昇の影響は前期より大きく、価格改定と不採算品目の見直しでカバーする
- 為替前提は1ドル=116円
- 当期純利益の減少・ROEの低下は21年度連結除外等の一過性要因が影響

単位：百万円	2021年度 通期	2022年度 通期予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	79,231	86,000	+6,768	+8.5%
営業利益	5,840	5,400	▲440	▲7.5%
経常利益	6,182	5,600	▲582	▲9.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	21,582	4,200	▲17,382	▲80.5%
ROE	38.3%	6.2%		



理研ビタミン株式会社

証券コード：4526

中長期ビジョンと 2022-24年度 中期経営計画

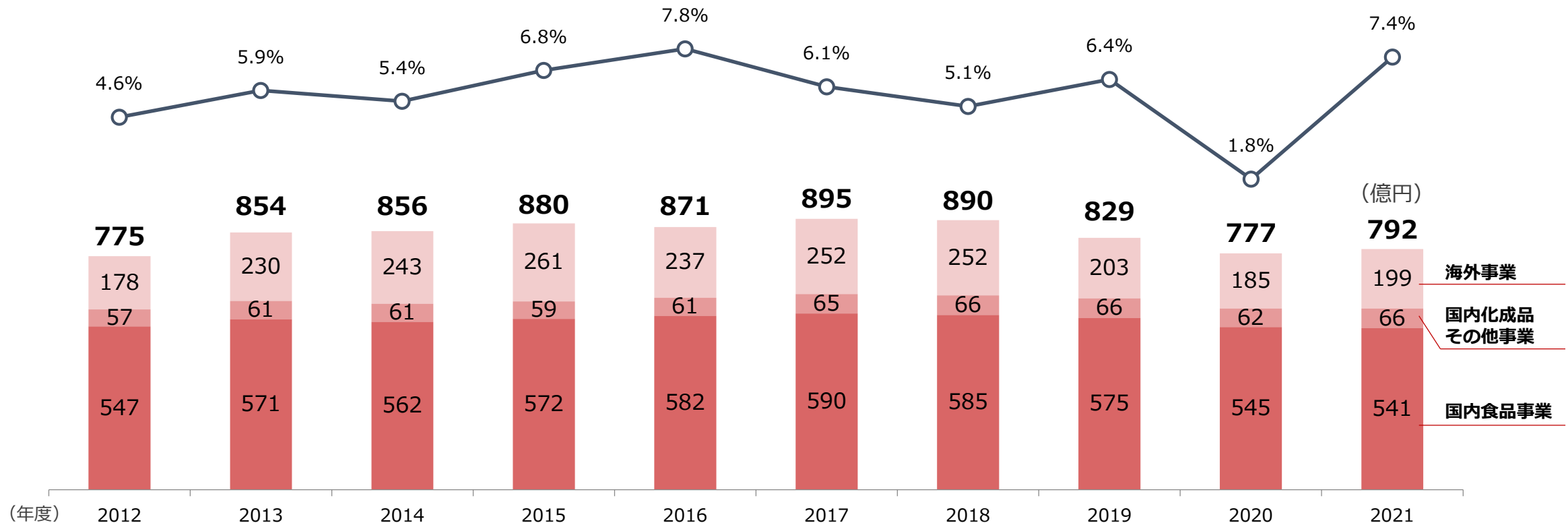
代表取締役社長
山木一彦

2022年5月18日

中長期ビジョン

- 前半は緩やかに成長したが、後半は伸び悩み
- 成長エンジンと位置付けた海外事業も、10年前とほぼ同じ規模

■過去10年の売上高・営業利益率



定量目標値は全て未達、新領域への挑戦は一定の成果あり

前中計テーマ	振り返り
2020年度数値目標：売上高、営業利益、営業利益率、当期純利益、ROE	● 全て未達
国内：さらなる構造基盤の強化	● 国内食品：減収減益 ・ 業務用食品がコロナの影響大、新たな需要への対応 ・ 利益率が低い中国産わかめからの撤退 ・ ヘルスケア分野が着実に伸長 ● 国内化成品その他：増収減益
海外：成長エンジンの加速化	● 海外改良剤：2021年度 増収増益 ・ コロナ、原料高、海上運賃高騰の影響大 ● 青島福生食品：連結除外
新領域への挑戦	● 冷凍海藻の拡大 9億に成長 4年で1.5倍 ● わかめの産地判別検査の開始 ● A&Iセンターの開設 ● 化粧品分野への販売の拡大 ● マイクロカプセルの売上が11億に成長、医薬MC棟を新設
C S R 経営の推進	● 優良種苗の提供によるわかめ養殖産業の生産性向上



A&Iセンター



医薬MC棟

企業理念：1949年（設立）～

天然物の有効利用を図る技術と商品で、
人々の健康と栄養に寄与し、社会に貢献する

祖業：魚の肝臓から天然ビタミンAを製造*

*今は製造していません

天然物から成分を抽出・精製・濃縮する技術

- ・ エキス
- ・ 蒸留モノグリセライド
- ・ 天然色素
- ・ ビタミンE
- ・ 健康機能食品

不安定なビタミンAを安定化する技術

- ・ マイクロカプセル

水産資源調達・研究のつながりがきっかけ

- ・ わかめ

経営理念：1997年～

**社会に対し、食を通じて
健康と豊かな食生活を提供する**

※他全5項目

製品の用途開発や新市場開拓により、豊かな食生活に貢献

家庭用食品

- ・ ふえるわかめちゃん®、わかめスープ
- ・ ノンオイルドレッシング
- ・ 素材力だし

業務用食品

- ・ 冷凍海藻（丸採りわかめ・わかめ唐揚げ・もずく）

加工食品用原料等

- ・ 顧客の抱える課題を技術力と提案力で解決

国内化成品その他

- ・ 食品用改良剤を化成品に応用

海外改良剤

- ・ 日本で培った課題解決力を世界へ展開

人口の変化 世界人口は増加、日本は減少

気候の変化 自然災害リスクの増加・脱炭素への移行

ライフスタイルの変化 食生活の多様化による顧客課題の増加

不確実性の高まり 将来の予測が困難



E（環境）・S（社会）の課題解決が成長につながる

持続可能な社会を スペシャリティな製品とサービスで支え 成長する会社になる

2022年度

2030年度

経営基盤（ガバナンス）の強化

新たな企業文化の構築

アジア・北米での展開を加速

海外スペシャリティ製品の拡大

国内の深掘りと新領域への挑戦

戦略的なポートフォリオの見直し

サステナブル経営の推進

2022-2024年度 中期経営計画

将来の成長に向けた基盤強化と投資を行う

2022-24年度中計

(25-27年度)

(28-30年度)

経営基盤（ガバナンス）の強化

新たな企業文化の構築

アジア・北米での展開を加速

海外スペシャリティ製品の拡大

国内の深掘りと新領域への挑戦

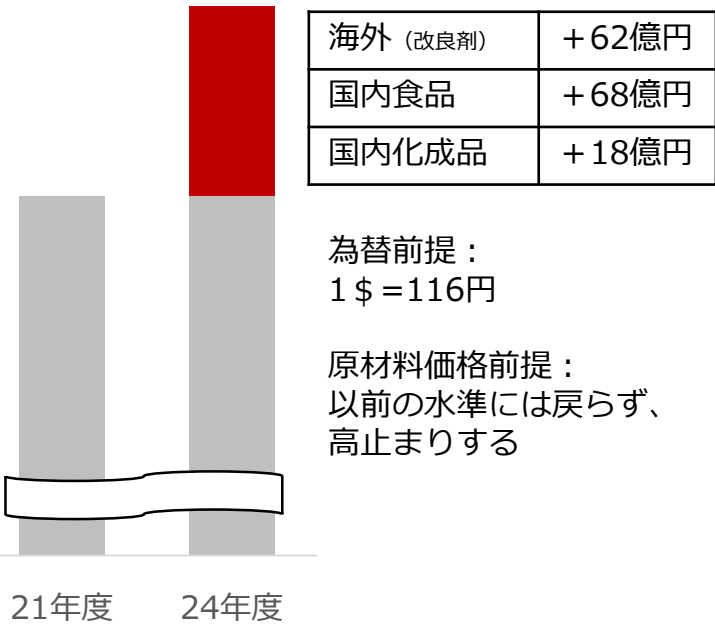
戦略的なポートフォリオの見直し

サステナブル経営の推進

2024年度
売上高
940億円

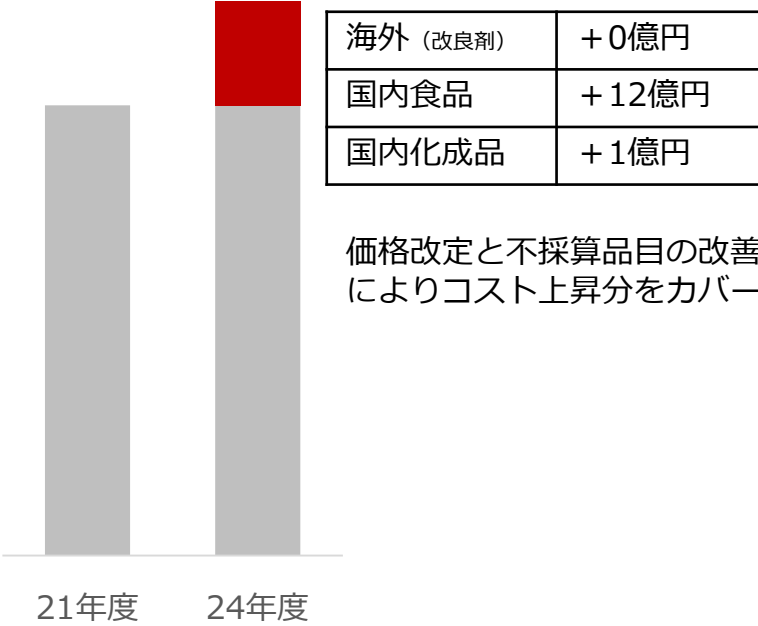
事業環境の不確実性が増しているが、
現状想定できる数値として設定

+ 151億円 ※連結除外事業を除く



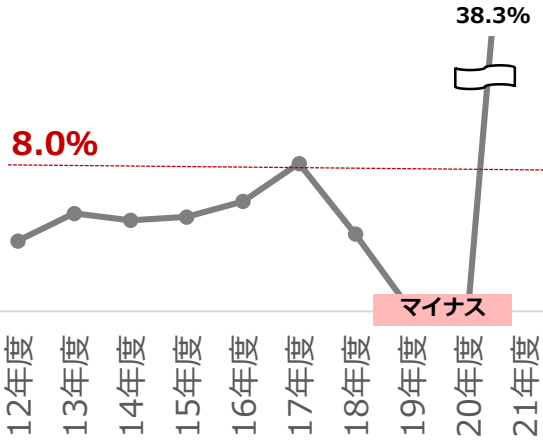
営業利益
80億円（8.5%）

+ 15億円 ※連結除外事業を除く



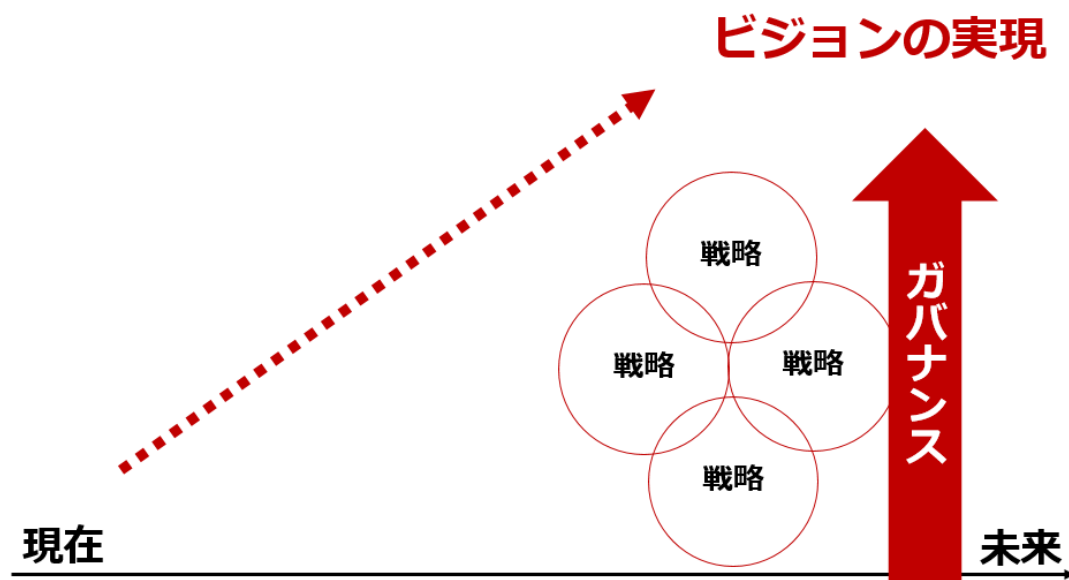
ROE
8.0%以上

- ・ 営業利益の創出
- ・ 政策保有株式の売却
- ・ 配当性向30%以上



19-21年度のROEは連結除外事業の影響大

ビジョンを実現するためのガバナンス体制の確立



■ コーポレート・ガバナンスの実効性強化

社外取締役との協働と、公正で健全な緊張関係の構築

- ・ 外部機関による取締役会の実効性評価と、評価を踏まえたPDCAサイクルの実行
- ・ サクセッションプランの強化・推進
- ・ 政策保有株式の縮減 2024年度末連結純資産比率20%未満

■ グループ・ガバナンス体制の強化

国内外子会社と本社との連携を深める組織体制の構築

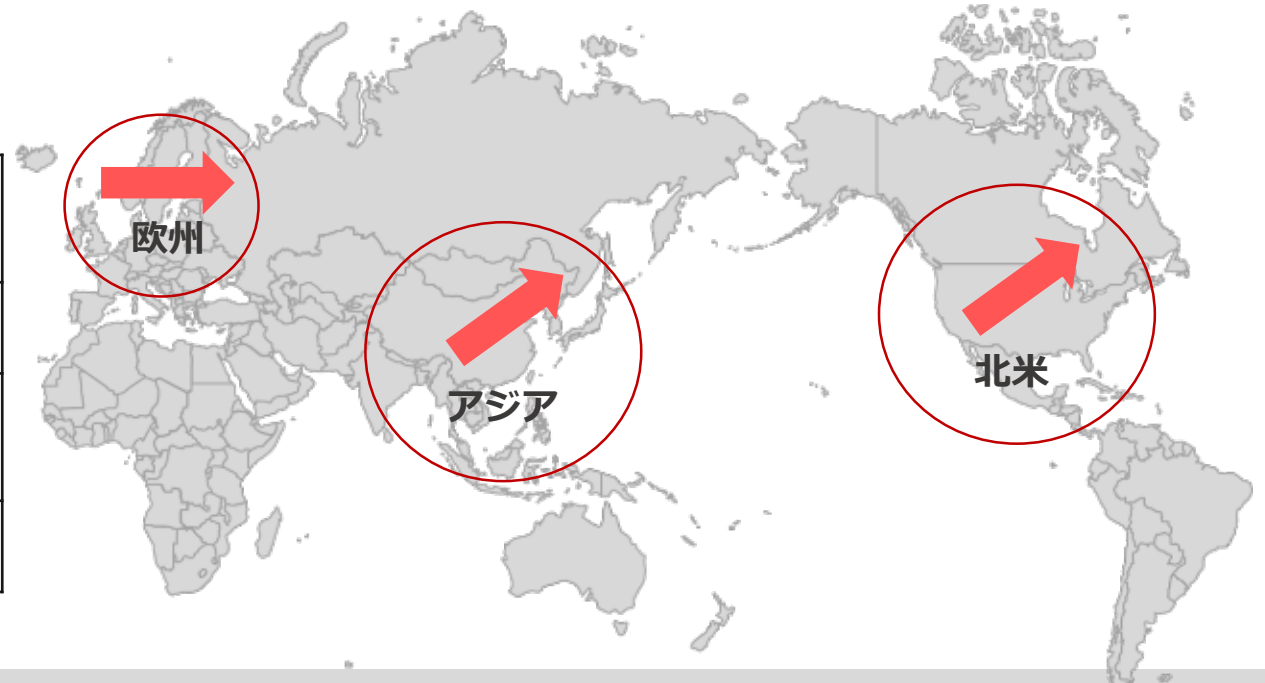
- ・ 本社での管理集約化による効率化と管理強化
- ・ 監査部門の増員と監査等委員との連携

■ 情報開示の充実と対話の強化

- ・ 事業内容や非財務情報について正確でわかりやすい開示の充実と、英文開示の拡大
- ・ 機関投資家および個人投資家との対話の強化
- ・ 統合報告書の作成（2023年度から）

サステナブルな成長ドライバーへ

(百万円)	21年度実績	22年度予想	24年度目標
売上高	19,527	23,000	25,800
売上高成長率 (単年度)	33.6% ※旧基準換算	17.8%	8.4%
営業利益率	7.0%	4.3%	5.4%



食品用改良剤 ・エキス

- アジア市場向けベーカリー、惣菜・冷食、冷菓に開発、営業力を集中
- 中国内陸部での売上増加
- 北米市場でのベーカリー向けの原体→製剤への展開と、ポークエキスの拡大

化成品用改良剤

- 全世界に向けてESGをキーワードに提案

設備投資

- 天津理研維他食品（中国）の生産能力増強（2024年度）
- アジア/北米での生産能力増強の方向性を検討

国内経営資源を
最大限活用

既存領域の深掘りと新領域への挑戦により成長する

(百万円)	21年度実績	22年度予想	24年度目標
売上高	54,130	56,800	61,000
売上高成長率 (単年度)	1.8% ※旧基準換算	4.9%	2.9%
営業利益率	9.1%	7.7%	10.2%

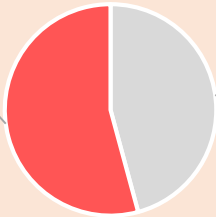


家庭用食品 + 13億円	● わかめのトップメーカーとして、積極的な啓発・広告で市場拡大をけん引 ● ドレッシングは価値訴求にシフト、SNSを活用しメニュー訴求強化 ● 素材力だしの第3次成長へ新規顧客獲得、新商品の投入、使用シーンの拡大
業務用食品 + 25億円	● 新常態での成長市場（老健・中食）へのアプローチ強化 ● 食品と改良剤のソリューション営業を推進 ● 冷凍海藻のさらなる拡大と陸上養殖海藻の拡販
加工食品用原料等 + 29億円	● フードロス削減に向け、販売期間の延長、製造時ロス低減など多面的な提案 ● コロナ禍で成長している栄養強化市場やペットフード市場での拡販強化 ● 健康寿命の延長およびQOL向上に役立つ製品の開発

原料高騰等の環境変化に対し価格改定や不採算製品の見直しを強く進める

食品用改良剤：持続可能な食生活に貢献

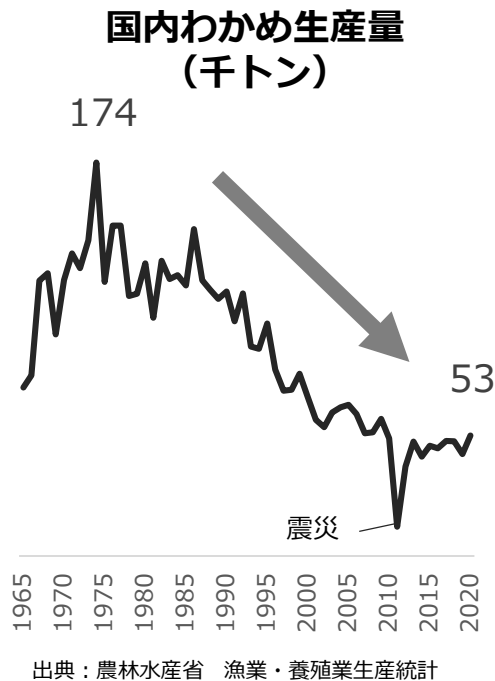
加工食品流通のサステナビリティ課題と、当社の提供価値

課題	原材料調達	加工	流通	消費
	気候変動に伴う食物資源の不安定化への対応	- 生産工程でのロス低減 - 省エネ・省力化	- 廃棄ロスの低減 - 食べる時までおいしく	- 健康意識の高まり - 新素材の市場拡大
	資源の有効利用	フードロスの低減		おいしさ・健康機能の提供
提供価値	原材料の品質のブレによる影響を抑える 加工が難しい未利用資源の活用 	生産工程でのロスを改良剤の機能で低減し、歩留の向上と省エネ・省力化を実現	時間がたっても風味・食感を維持する (パンや和菓子の柔らかさなど) 酸化防止により品質を保つ (ビタミンE)	PBFなど新しい食品素材の食感改良、おいしさの向上 天然系色素による視覚的シズル感の向上  栄養補助食品へのビタミン供給
		日本のフードロス発生量 570万トン 事業系309  家庭系261 (2019年度 農水省・環境省資料)		

海藻：わかめの種苗研究を起点に、養殖産業を活性化

わかめ養殖産業の課題

生産量・生産者数の減少、不安定な価格



気候変動

生産者の減少
・高齢化

寒冷期の
作業負担

主な産地である
三陸の復興

課題解決のための研究と 多面的な提案



良い種づくり

- 優良種苗の開発



良い種の
安定供給

- 三陸のわかめ種苗の、10%分の生産が可能
- さらに種苗供給を増やし、生産量の安定化へ

養殖技術の
改善

- 早生と晩生の使い分けによる作業分散
- 間引き不要の種苗による作業量低減

三陸復興への
積極関与

- 養殖産地の開拓：閉上でのわかめ養殖
- 岩手県綾里での大規模養殖の取り組み

わかめのリケンから海藻のリケンへ

海藻養殖産業の課題は共通、わかめの成果を他の海藻にも応用可能

地球規模の課題へ

モズクの種苗研究
沖縄

スジアオノリの陸上養殖
岩手・陸前高田ベース

ブルーカーボン効果
長崎大学との共同研究



モズク養殖網



陸上養殖した
スジアオノリ

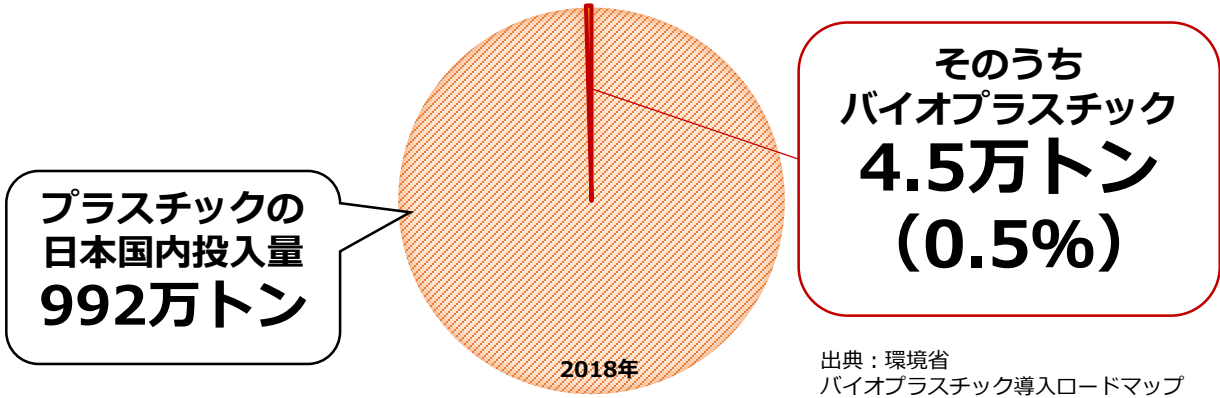
当社
グループ

長崎大



今後成長する環境対応製品が得意分野

(百万円)	21年度実績	22年度予想	24年度目標
売上高	6,617	7,500	8,500
売上高成長率 (単年度)	11.1% ※旧基準換算	13.3%	6.3%
営業利益率	9.1%	6.0%	9.4%



食品用改良剤を
化成品に展開

▼

バイオマス製品が
スペシャリティ

環境対応製品	● バイオマスプラ・生分解性プラ向け製品（可塑剤・相溶化剤等） ● 自動車分野、弱電分野向け高機能製品（相溶化剤等）
化粧品分野への展開	● バイオマスの界面活性剤 ● 化粧品向け機能性素材の開発 
農業用分野への展開	● 農作物害虫の忌避剤 ● スギ花粉飛散抑制剤：実証実験を継続し、実用化を目指す

化成品用改良剤：バイオマス製品

サステナブルな素材の研究

- 相溶化剤MB

樹脂と通常は混ざりあわないバイオマス素材（セルロースナノファイバーなど）を混ぜ合わせる機能を持つ改良剤

- 生分解性プラ・海洋分解性プラ用改良剤

各国で法規制化が進み、可塑剤や帯電防止剤などの使用量が拡大する方向。必要な試験に対応し、提案強化

化粧品分野の研究

- 外部との共同研究を推進

植物や藻類の新たな機能素材と事業機会を探索

農業分野への展開

- スギ花粉飛散抑制剤

将来のスギ花粉の飛散量抑制を期待
22年度は無人ヘリ散布試験を実施予定



スギの雄花

- 忌避剤

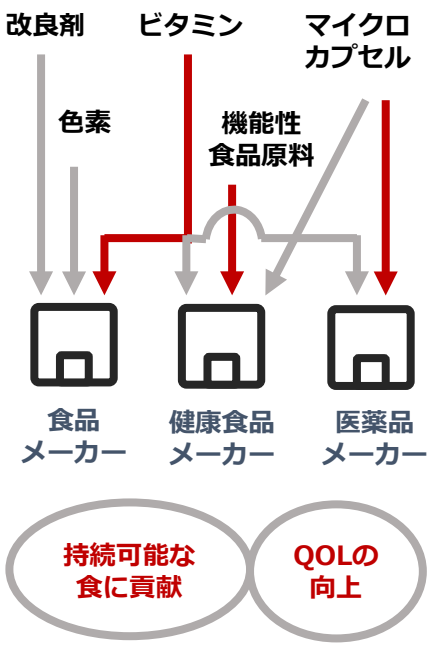
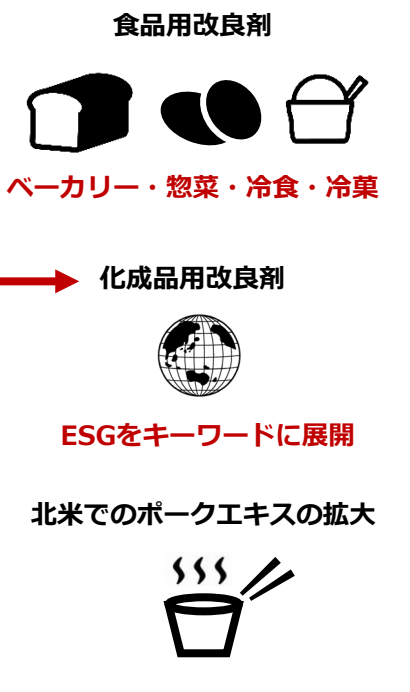
「殺す」のではなく「忌避」で農作物を害虫から守る



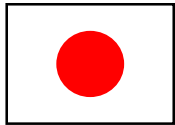
ハダ二類の新規忌避剤の研究

提供 理化学研究所
有本主管研究員（2021年）

セグメント別のポイント まとめ

セグメント	国内食品事業：幅広い製品群を持つ強みを活かして深掘り			国内化成品その他事業	海外事業
	家庭用食品	業務用食品	加工食品用原料等		
強化ポイントと各セグメントの製品群	新商品開発と既存品の育成  ドレッシング わかめ わかめスープ 素材力だし 新規カテゴリ 小売店 消費者	老健・中食市場に注力 改良剤・ビタミンの販路拡大 加工食品メーカーの再開拓  調味料・エキス 海藻 改良剤・ビタミン 給食 外食 CVS 食品メーカー 老健市場 中食市場	多様化する課題を解決 ヘルスケア製品の拡大 日本国内と海外との連携  改良剤 色素 ビタミン 機能性食品原料 マイクロカプセル 食品メーカー 健康食品メーカー 医薬品メーカー 持続可能な食に貢献 QOLの向上	バイオプラ向け・化粧品分野・農業用分野への展開 日本国内と海外との連携  化成品用改良剤 帯電防止剤、防曇剤 可塑性剤など バイオマス製品 食品包装 自動車 農業用フィルム・新規農業分野 建材 化粧品	アジア・北米での展開加速 天津理研の生産能力増強  食品用改良剤 ベーカリー・惣菜・冷食・冷菓 化成品用改良剤 ESGをキーワードに展開 北米でのポークエキスの拡大

それぞれの枠の中で
最適化を目指す生産体制



国内か海外か



どの事業か



どの拠点か



持続的な成長に向け
グローバルサプライチェーンを
全体で支える体制に変革

生産部門の組織再編：

国内・海外生産本部の再編
調達部門の独立

DX：

ボーダレスな
業務連携

徹底した見える化、責任と権限の明確化
意思決定のスピードアップ

GX：環境負荷低減活動の推進

品質保証部門のグローバル化推進

● E

GHG排出量

2030年度

40%削減 (Scope1+2、2018年度比)

2050年度

カーボンニュートラルを目指す

TCFD

2022年4月、TCFD提言に賛同
(TCFD提言に基づく開示を補足資料に掲載)

環境負荷低減目標

全商品バイオマスインキ使用
賞味期限の年月表示化 (賞味期間1年以上の商品)
ドレッシングボトルのリサイクルペット化

● S

ダイバーシティ & インクルージョンの推進

多様な人材の採用と育成
女性管理職目標 23年度末 6%以上

変化に対応可能な自律型人材の育成

リスキリングの推進と人事制度の見直し
グローバル人材比率目標 30年度末 10%以上

健康経営の推進

食育活動の充実

● G

外部機関による取締役会の評価の実施

政策保有株式の連結純資産比率 20%未満

成長を支える投資と、安定した財務基盤を両立

営業キャッシュフロー

250億円

政策保有株式の縮減
50億円



設備投資
100億円

- 成長投資
 - 天津改良剤工場増築
 - 東京工場ビタミンミックス棟 など
- 維持・更新投資

配当
50億円

- 配当性向30%以上を目安とした安定した配当を継続

借入金返済
100億円

- 大きな環境変化に耐えうる財務基盤の安定化

戦略投資
50億円

- 人財投資
- 追加設備投資
- 株主還元

持続可能な社会をスペシャリティな製品とサービスで支え、成長する会社になる



理研ビタミン株式会社

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれます。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予測したものです。
実際の業績などは今後の様々な条件・要素により、この計画などとは異なる場合があり、
この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

経営企画部 広報・I R室 井上・清水

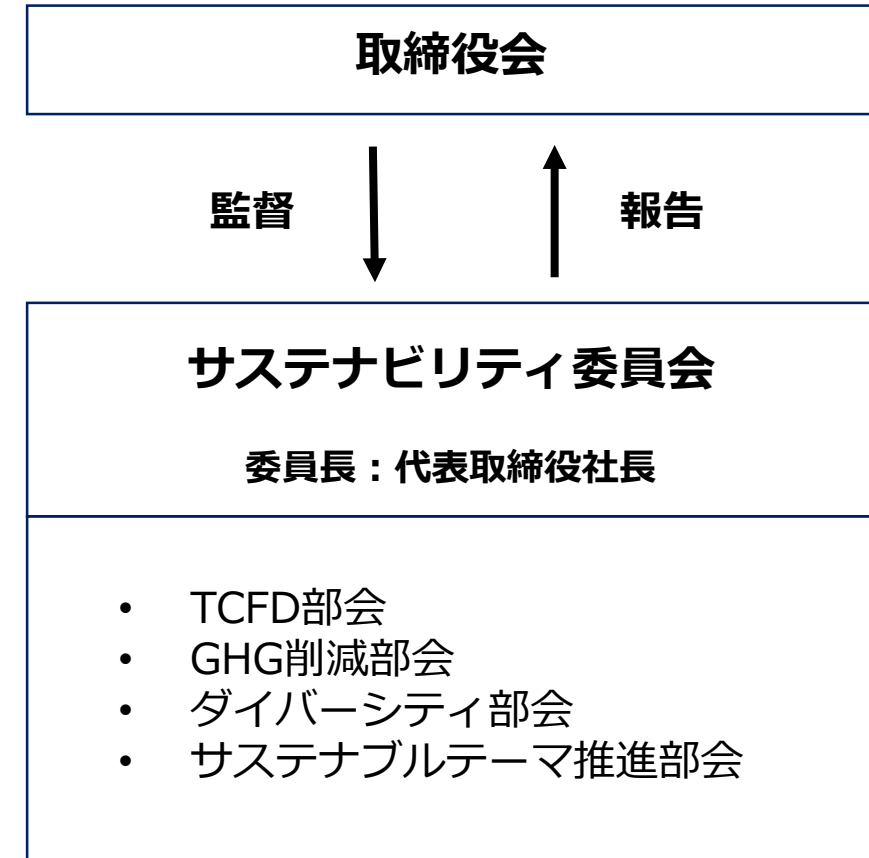
T E L : 03-5362-1315

補足資料

2022-24年度中計 サステナブル経営基本方針

- 健全なガバナンス体制のもと、社会や環境に配慮した事業推進を行う
- スペシャリティな製品とサービスで、事業を通じた社会課題や環境課題への貢献を行い、持続的成長をとげる
- 社会から信頼され、従業員が誇りをもって働ける企業として前進する

サステナビリティ推進体制

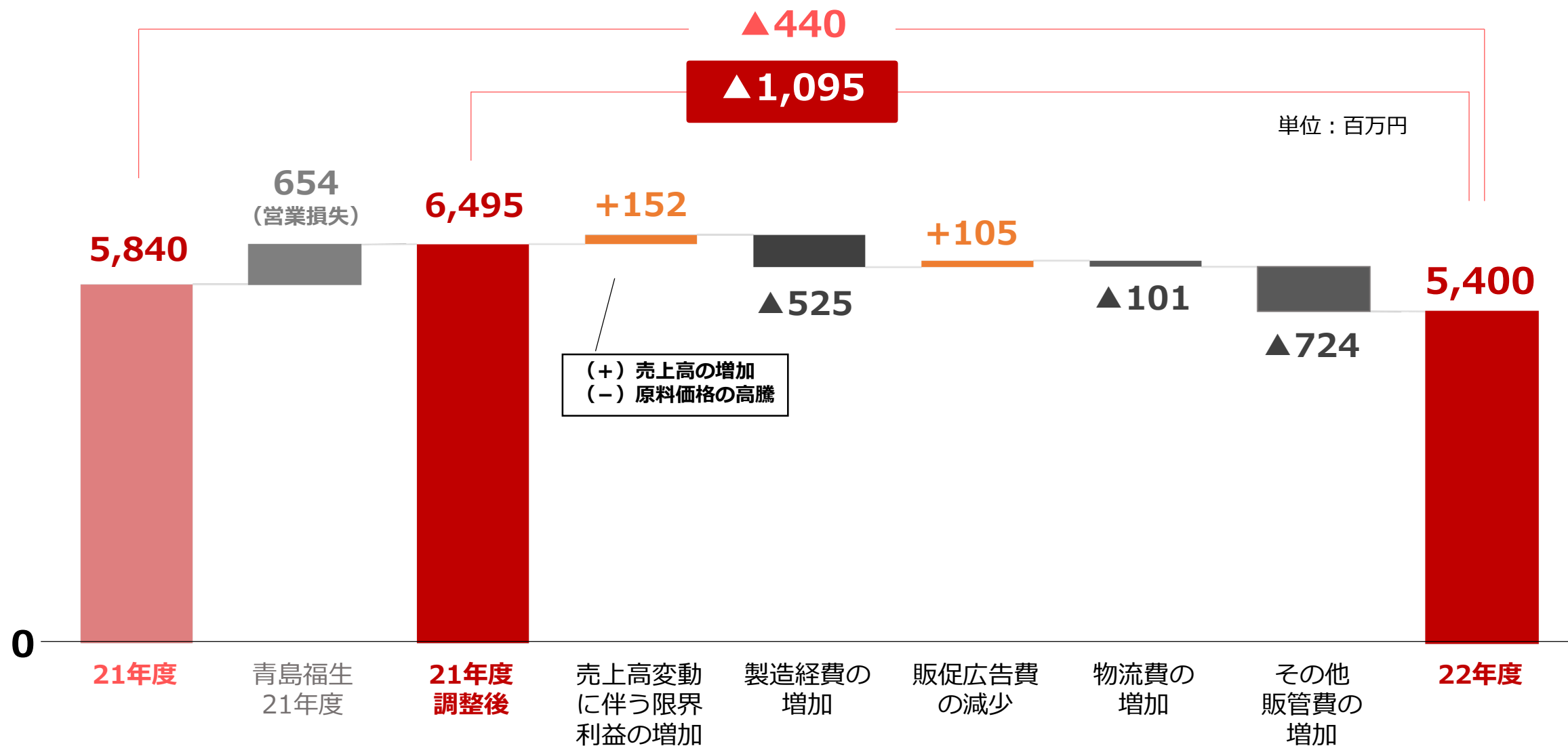


コスト上昇に対する価格改定で増収だが、利益は減少見込み

単位：百万円

	売上高				営業利益			
	2021年度 通期	2022年度 通期予想	前期比		2021年度 通期	2022年度 通期予想	前期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
国内食品事業	54,130	56,800	+2,669	+4.9%	4,938	4,350	▲588	▲11.9%
家庭用食品	12,928	13,000	+71	+0.6%	/	/	/	/
業務用食品	18,196	19,200	+1,003	+5.5%				
加工食品用原料等	23,005	24,600	+1,594	+6.9%				
国内化成品その他事業	6,617	7,500	+883	+13.3%	602	450	▲152	▲25.2%
海外事業	19,926	23,000	+3,073	+15.4%	705	1,000	+295	+41.8%
海外改良剤	19,527	23,000	+3,472	+17.8%	1,360	1,000	▲360	▲26.5%
(連結除外事業)	399	-	-	-	▲654	-	-	-

2022年度 営業利益の要因別増減



中期経営計画 業績目標数値

(百万円)		2021年度実績			2022年度予想			2023年度目標	2024年度目標
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期	通期
売上高	国内食品事業計	26,968	27,161	54,130	28,000	28,800	56,800	59,300	61,000
	家庭用食品	6,658	6,270	12,928	6,600	6,400	13,000	13,700	14,300
	業務用食品	9,087	9,108	18,196	9,400	9,800	19,200	20,000	20,700
	加工食品用原料等	11,223	11,782	23,005	12,000	12,600	24,600	25,600	26,000
	国内化成品その他事業	3,277	3,340	6,617	3,700	3,800	7,500	8,000	8,500
	海外事業計	8,962	10,964	19,926	11,000	12,000	23,000	23,800	25,800
	海外改良剤	8,562	10,964	19,527					
	(青島福生食品)	399	-	399					
	調整額 (セグメント間消去)	▲ 605	▲ 837	▲ 1,443	▲ 700	▲ 600	▲ 1,300	▲ 1,100	▲ 1,300
	連結合計	38,603	40,628	79,231	42,000	44,000	86,000	90,000	94,000
営業利益	国内食品事業	2,500	2,437	4,938	2,100	2,250	4,350	5,400	6,200
	国内化成品その他事業	335	266	602	200	250	450	700	800
	海外事業	▲ 263	968	705	400	600	1,000	1,000	1,400
	海外改良剤	391	968	1,360					
	(青島福生食品)	▲ 654	-	▲ 654					
	調整額 (セグメント間消去)	▲ 176	▲ 228	▲ 404	▲ 200	▲ 200	▲ 400	▲ 400	▲ 400
	連結合計	2,396	3,444	5,840	2,500	2,900	5,400	6,700	8,000
経常利益		2,518	3,664	6,182	2,700	2,900	5,600	6,900	8,200
親会社株主に帰属する当期純利益		17,162	4,419	21,582	2,000	2,200	4,200	5,300	6,500
ROE				38.3%			6.2%	7.5%	8%以上

(百万円)	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 予想
売上高	77,568	85,419	85,603	88,072	87,181	89,515	89,024	82,974	77,722	79,231	86,000
前期比増減率	2.9%	10.1%	0.2%	2.9%	▲ 1.0%	2.7%	▲ 0.5%	▲ 6.8%	▲ 6.3%	1.9%	8.5%
営業利益	3,600	5,027	4,610	6,007	6,820	5,424	4,580	5,307	1,367	5,840	5,400
前期比増減率	40.3%	39.6%	▲ 8.3%	30.3%	13.5%	▲ 20.5%	▲ 15.6%	15.9%	▲ 74.2%	327.2%	▲ 7.5%
売上高営業利益率	4.6%	5.9%	5.4%	6.8%	7.8%	6.1%	5.1%	6.4%	1.8%	7.4%	6.3%
経常利益	3,741	5,294	4,645	5,321	6,248	4,587	4,388	5,045	1,652	6,182	5,600
売上高経常利益率	4.8%	6.2%	5.4%	6.0%	7.2%	5.1%	4.9%	6.1%	2.1%	7.8%	6.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,406	3,590	3,755	4,107	4,089	4,800	2,623	▲8,933	▲1,618	21,582	4,200
売上高当期純利益率	3.1%	4.2%	4.4%	4.7%	4.7%	5.4%	2.9%	—	—	27.2%	4.9%
総資産額	94,257	102,345	114,049	109,030	109,342	110,994	109,706	101,853	106,535	102,660	
純資産額	60,728	67,253	76,036	74,341	53,611	58,919	59,229	46,789	46,674	66,539	
自己資本比率	63.9%	65.1%	66.1%	67.7%	48.5%	52.7%	53.5%	45.5%	43.3%	64.8%	
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,064	6,908	5,941	8,377	8,126	5,753	6,689	5,850	7,660	6,823	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲5,697	▲3,578	▲5,690	▲6,389	▲3,080	▲1,617	▲3,388	▲4,282	▲2,322	▲3,661	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,334	▲861	▲1,222	▲3,140	▲1,881	▲5,869	▲2,490	▲3,051	▲180	▲7,565	
ROE	4.1%	5.7%	5.3%	5.5%	6.4%	8.6%	4.5%	▲ 17.0%	▲ 3.5%	38.3%	6.2%

2014年度～2019年度は決算訂正後の数値

セグメント別四半期業績推移

(百万円)		2019年度				2020年度				2021年度			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	国内食品事業計	14,560	14,356	15,164	13,464	13,498	13,592	14,480	12,942	13,503	13,465	14,255	12,905
	家庭用食品	3,514	3,204	3,379	3,273	3,992	3,361	3,422	3,233	3,419	3,239	3,145	3,124
	業務用食品	5,393	5,332	5,455	4,839	4,299	4,708	5,091	4,488	4,559	4,528	4,822	4,285
	加工食品用原料等	5,653	5,819	6,329	5,351	5,206	5,522	5,966	5,221	5,524	5,698	6,287	5,495
	国内化成品その他事業	1,576	1,702	1,844	1,507	1,460	1,495	1,700	1,547	1,616	1,661	1,750	1,589
	海外事業計	4,717	5,363	5,014	5,278	3,914	4,709	5,384	4,541	4,659	4,302	5,485	5,479
	海外改良剤	3,616	4,050	4,044	3,810	3,049	3,698	3,907	3,975	4,260	4,302	5,485	5,479
	(青島福生食品**)	1,101	1,312	970	1,467	864	1,011	1,477	565	399	-	-	-
	調整額 (セグメント間消去)	▲ 361	▲ 384	▲ 452	▲ 379	▲ 416	▲ 294	▲ 421	▲ 415	▲ 278	▲ 327	▲ 507	▲ 329
連結合計		20,493	21,038	21,570	19,871	18,457	19,502	21,145	18,617	19,500	19,102	20,983	19,644
営業利益	国内食品事業	1,315	1,149	1,784	1,138	1,286	890	1,424	1,076	1,291	1,209	1,627	810
	国内化成品その他事業	188	155	195	131	167	61	164	147	211	124	176	89
	海外事業	▲ 7	437	311	▲ 1,034	▲ 1,881	▲ 525	▲ 324	▲ 572	▲ 421	158	468	500
	海外改良剤	149	327	300	72	76	178	175	65	232	158	468	500
	(青島福生食品**)	▲ 156	109	10	▲ 1,107	▲ 1,957	▲ 703	▲ 500	▲ 637	▲ 654	-	-	-
	調整額 (セグメント間消去)	▲ 40	▲ 164	▲ 74	▲ 178	▲ 295	▲ 199	▲ 19	▲ 34	▲ 71	▲ 105	▲ 119	▲ 109
	連結合計	1,455	1,576	2,217	57	▲ 722	227	1,245	617	1,009	1,386	2,153	1,290

*2021年度より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています

**青島福生食品は2021年6月に持分譲渡し、1Qで連結から除外しました。